

令和3年度 政策課題共同研究研修 ～川口市を住みたい街ランキング1位にするには～

川口市総務部職員課

1 研修の概要

令和3年度の川口市政策課題共同研究研修は、入庁3～14年目の主事・技師級の職員のうち受講希望者を対象として実施しました。

上級職員研修「政策形成能力開発講座」（2日間研修）の修了者が、政策形成能力をさらにステップアップさせるための研修で、平成7年度から実施しています。

今年度は、期間を4ヶ月から2ヶ月に短縮し、企画書も論文形式からワンペーパー形式に変更し、よりスピーディーに実践的な研修になるように見直しを図りました。

2 研修の進め方

4～5人のグループに分かれて、外部講師による講義4日と、グループ討議3日（半日単位で6回、グループごとに自由に設定）の計7日間の研修です。

講義1日目は、「問題発見と現状調査・分析」で、上級職員研修で学んだことの復習と、民間の調査・分析手法を学びました。

講義2日目は、「政策の立案と資料作成技法」。ワンペーパー資料の作成方法やわかりやすい表現方法を学びました。

講義3日目は、「政策案の彫琢（ちょうたく）」。

グループごとに中間発表した後、グループ対抗ディベートを行い、実行可能性を高めるための視点を学

び、政策案に磨きをかけました。

講義4日目（最終日）は、プレゼンテーションの講義の後、午後から発表会を行いました。

3 研修テーマ

今年度は「川口市を住みたい街ランキング1位にする」ための政策案を市長から求められたという設定で進めました。川口市は民間の調査会社による「住みやすい街ランキング」で2年続けて優勝しており、「住みやすい」から「住みたい」と選ばれる自治体になるため、このテーマにしました。

4 研修成果について

本研修では各グループの研究成果として、企画書をもとに発表会を実施しています。今年度は新型コロナウイルス感染症の関係もあり、発表会は研修生のみで実施しましたが、庁内イントラネットに企画書と発表時の音声を投稿し、広く庁内に周知しました。

研修生同士の評価では、1位は1班「魅力発信再発見 川口公園MAPプロジェクト+」でした。今回は各グループが実際に作成した企画書を全て御紹介します。

実際の政策として実施するには粗削りですが、若者らしい発想に納得させられる部分もありました。また、市の政策を真摯に考えた経験は貴重な財産となり、中堅職員として大きく成長することができたのではないかと思います。





川口公園MAPプロジェクト+ プラス

1 班 磯貝 岡本 草壁 横山 清野

1. 本件実施のねらい

商業圏と公園の絶妙なバランスをアピール

(1) 本当に住みやすい街大賞 2年連続1位の要因
通勤通学、都心に直結、商店充実、何でも揃うし、しかも安い
公園たくさん、豊かな自然、心も体もリフレッシュ!?

(2) “公園たくさん、豊かな自然”ってイメージ、川口市にありますか？

400以上の公園が整備されているので、ポテンシャルは◎
好立地な上に、緑が多いことを市内外にアピール!

交通の利便性と商業圏の充実

豊かな自然・公園のアピール

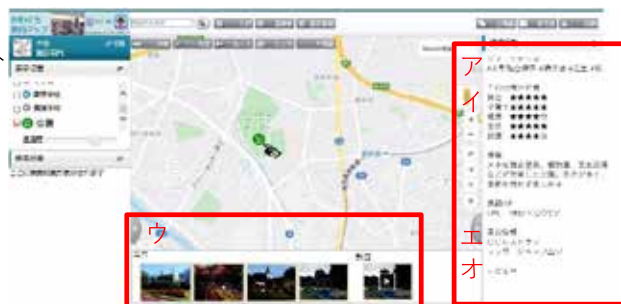
住みたい街ランキング1位

2. 実施事項と詳細内容

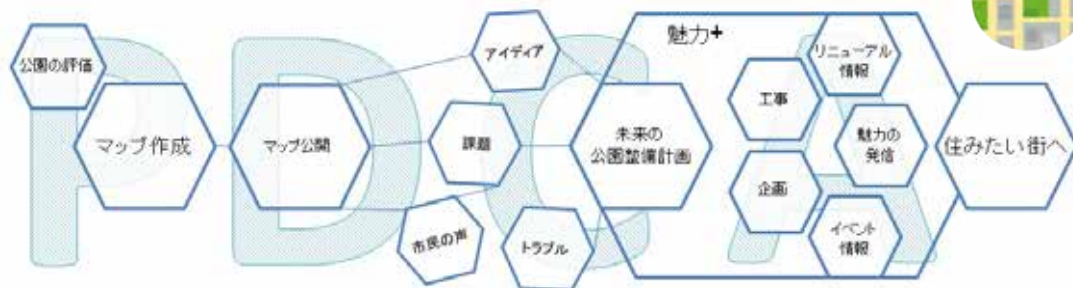
かわぐち案内マップを活用した公園マップの導入

(1) マップの機能

- ア 公園の特徴をタグ付 (キーワード検索)
- イ 各公園の魅力の視覚化
公園の評価・採点を行う
(子育て、健康、自然、設備、総合評価)
- ウ 写真、動画、パノラマビュー
- エ 周辺情報 (店舗、交通、市内名所)
- オ ユーザーレビュー、画像投稿



(2) 魅力+



3. コスト・予算

	初年度	2年度	3年度	4年度	5年度	計
費用 単位：千円	0	4,500	300	300	300	5,400

川口あんないマップ閲覧者増加

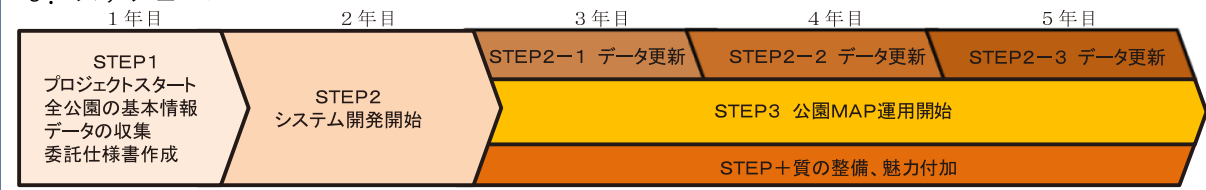
↳市内外に住みやすさが拡散

↳住みたい街ランキング1位に

4. 実施に伴うリスク

想定されるリスク	対 策
使われないリスク	・簡易な検索ワードから見つけやすいマップ ・関係課、民間企業HPにリンク、バナー掲載 ・SNSで発信 ・プレゼント企画

5. スケジュール



放課後小学生学力アップ講座で実現する “子育てしやすい住みたい街川口”



1. 本件実施のねらい

住宅購入者のうち、子育て世帯（18歳未満の世帯員がいる世帯）の占める割合は多く、子育て世帯の満足度を上げることが、住みたい街1位に繋がると考える。（国土交通省「令和2年度 住宅市場動向調査」より、住宅購入者のうち、子育て世帯は、約60%を占めている。）

【令和2年度川口市市民意識調査より】

要望	現状
子どもたちが積極的に学ぶことができる環境を充実させてほしい (23施策中7位)	①市の良いところに教育環境を挙げた人(1.5%) ②子どもたちが積極的に学ぶことができる環境が整っていると思う (23施策中18位)

課題
教育への要望は高いが
市の取り組みへの満足度
は高くない

- (1) 放課後小学生学力アップ講座により、塾よりも安く学習支援を提供し、教育への高い要望に応える。
- (2) この講座は、指導員による指導を受けることができ、自習のみの既存の放課後児童クラブ等と比べ、学習効果が高い。
- (3) 講座への参加を通して、小学生時代の勉強習慣をつくることができ、その後の学力向上につながる。

2. 実施事項

市内小学生の受講希望者を対象に、令和5年4月より「放課後小学生学力アップ講座」を実施。
初年度は10校で開講し、毎年度段階的に実施校を増やし、市内全小学校での実施を目指す。

3. 詳細

- 開講時間：週4日、16時～18時
- 定員：1クラスあたり15名
- 講座料金：無料（別途保険料年間800円程度）
- クラス編成：1校あたり、低学年と高学年の2クラス
- 指導員数：1クラスあたり1名/日
- スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
休	休	学習 支援	英語 教室	学習 支援	応用 授業	休
・学習支援：自習室を設置し、学習支援員により家庭学習を補助する（国算理社英）。 ・英語教室：外国人講師等による英会話教室。 ・応用授業：学習塾のアルバイト講師等による応用学習授業（国算理社英）。						

4. コスト・予算

項目	年度	R5	R6	R7	R8	R9
費用（単位：百万円）		20.4	40.8	61.2	81.6	106.1
効果※（%）		1.9	2.2	2.6	3.0	3.4

※市民意識調査における、市の良いところに教育環境を挙げた人の割合

人件費 2,300円（時給）×2時間×2クラス×10校×週4日×50週
=1,840万円
事務費 10万円×2クラス×10校=200万円

初年度
費用内訳

5. 実施に伴うリスク（課題と対策）

- (1) 児童のケガ：
受講者の保険への加入を義務付ける。
- (2) 受講者数の伸び悩み：
市の広報、学校からのお知らせ等により周知徹底する。
- (3) 指導員の成り手不足：
教育課程の大学生の、教育体験プログラムとして活用してもらうよう、大学に働きかける。

6. スケジュール

令和4年9月	指導員募集開始
令和5年1月	受講希望者の募集開始
令和5年4月	「放課後小学生学力アップ講座」開講
令和5年9月 (以後毎年9月)	①半期の実施状況を踏まえて、次年度実施校の選定及び講座内容の見直し②次年度指導員募集開始

「きらり保育士応援金」で“働きたい”をサポート！

～未来をつくる子どもたちを大切にするまち、かわぐち～

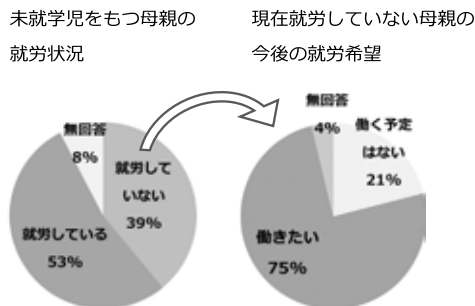
1.実施のねらい

“働きながら子育てをするなら川口市”

若い世代・子育て世代に選ばれるまちへ

- 保育所のニーズの高まり
未就学児の父親は80%、母親は53%が働いている
働いていない母親の75%は働く希望あり
- 民間保育所の増加に伴う課題
保育の質の確保が急務⇒保育士の質が重要
- 保育士に直接的な支援を
保育士の賃金は全国平均の水準以下
⇒直接的な支援により、質の高い保育士の確保と、
全ての保育士のモチベーションを向上

保育士を大切にするまちは、子どもを大切にするまち
未来をつくる子どもたちを大切にするまち、かわぐち



川口市子ども・子育て支援に関するニーズ調査
(平成30年11月実施) 結果報告書より

2.実施事項

川口市で働く保育士を対象に、毎年50,000円の
「きらり保育士応援金」を支給することで、保育士の
モチベーション、保育の質の向上を図る

3.詳細内容

- (1) 支給担当として職員を3～4人配置する
- (2) チラシを作成し、各保育所や就活セミナーなどに配布する。また、埼玉高速鉄道の車内やキャスティブジョンを活用し、市内外に広報する
- (3) 各保育所に申請書類の取りまとめを依頼し、申請を受付する(口座振替依頼書、身分証明書等の添付)
- (4) 書類不備や不正等がないか確認し、保育士個人の銀行口座へ応援金を支給する

4.コスト・予算

(単位：百万円)

	初年度	2年度	3年度	計
効果 ※1	—	28	78	106
費用 ※2	147	152	157	456
利益	-147	-124	-79	-350

※1 効果：人口増による市民税の収入増

※2 費用：きらり保育士応援金、振込手数料、
広告宣伝費等(チラシ作成料、埼玉高速鉄道
車内モニター・キャスティブジョン放映料)

5.リスク

想定されるリスク	対策
①コストがかかる ②保育所の負担増 ③誤支給、支給漏れ	①長期的な効果を優先 ②申請の簡素化 ③条件を簡潔明瞭にする 保育所との密な連携

6.スケジュール

- 2022.4～ 政策の広報
2022.7～ 支給対象者申請受付
2022.9～ 申請書類確認
2022.11～12 きらり保育士応援金支給



各年度の流れ



3班 チームあおい

班 長：藤澤 豊和
副班長：蜂谷 友萌

班員：長谷川 優子
班員：竹内 健朗

イ チ イ チ イ チ ゼ ロ
川口くらし支援アプリ「かわぐち1110」導入企画書
担当：4班 柴田・青木・坂井・秋葉・木梨

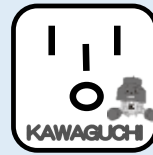
1. 本件実施のねらい

- (1) 行政手続き等の利便性向上
日本人だけでなく外国人住民に対しても、安心安全な市民生活をアプリでサポート。
- (2) 多文化交流
アプリを通して異文化に触れることで、互いの文化に理解を深めることができる。
- (3) コスト削減
コールセンターや各課の問い合わせ件数の抑制になるため、人件費が削減される。

2. 実施事項

2024年より市が主体で、多言語に対応したスマートフォン用アプリケーションを運営する。

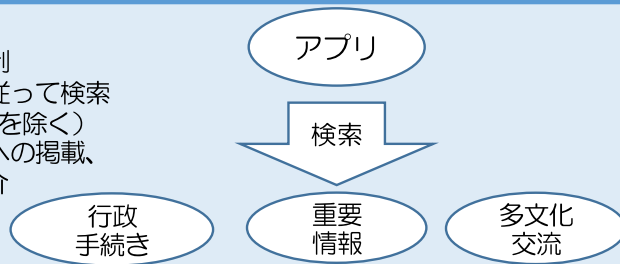
- (1) 多言語対応AIボット
- (2) 該当課への案内・予約
- (3) 防犯・災害等の緊急情報の通知
- (4) 外国人向け生活情報の掲載（生活のルールやマナー等）
- (5) 外国料理店、国際交流のイベントなどの情報掲載
- (6) 多文化共生啓発内容の掲載



※アイコンのデザイン

3. 詳細内容

- (1) アプリによる市民生活のサポート体制
- (2) 利用手順：ダウンロードし、手順に従って検索
- (3) 利用時間：24時間（メンテナンス時を除く）
- (4) 周知方法：広報かわぐち、市HP等への掲載、
転入時におけるアプリ紹介



4. コスト・予算（費用対効果）

（単位：千円）

	初年度	2年度	3年度	計
効果 ※1	0	2, 200	4, 400	6, 600
費用 ※2	1, 500	840	840	3, 180
利益	-1, 500	+1, 360	+3, 560	+3, 420

※1 電話交換業務委託費の削減
※2 アプリ開発費、運用維持費

5. 実施に伴うリスク

想定されるリスク	対策
①翻訳ミス	通訳者を交えた事前確認と事後修正
②セキュリティ	委託業者による徹底的な管理
③掲載情報のミス	各課における掲載内容の把握

6. スケジュール

2022.4	プロジェクトスタート	2023.7	アンケート結果を反映・修正
2022.7	アプリ仕様完成、委託業者選定	2023.9	第2回試行運用開始(利用者を公募)
2022.8	入札・委託業者決定	2023.11	利用者にアンケート実施
2022.9	アプリ開発・業者と打ち合わせ開始	2023.12	重大な欠点や改善点を修正
2023.4	第1回試行運用開始(職員のみデモ試行)	2024.4	全市民向け運用開始
2023.6	利用者にアンケート実施		

お試し暮らし 川口市



【5班】小林三紗・岩井昌大・間中結美・山内崇史・田口貴之

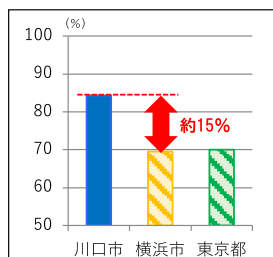
1. 実施のねらい

- (1) 住みやすい街のイメージを浸透させる
- (2) 移住者を増やす

川口市は「本当に住みやすい街大賞」で2年連続1位に選ばれたほか、市民意識調査では8割以上が住みたいと回答があった。つまり、一度住んでみれば、住みたいと感じてもらえるのではないかな？

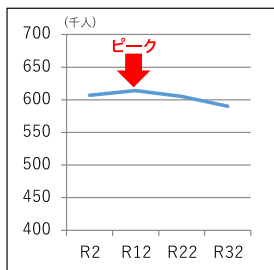
また、人口は令和12年をピークに減少することが推測されているため、移住者を増やす施策が必要になる。

住民意識調査において
住みたいと回答した人の割合



出典：川口市総合計画のための市民意識調査結果報告書
横浜市民意識調査、都民生活に関する世論調査

川口市将来人口推計

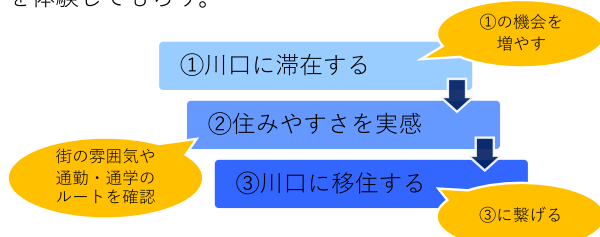


出典：第2期川口市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン

2. 実施施策

お試し移住サポート制度

川口市への移住を検討している人に1週間のお試し移住を体験してもらう。



3. 施策詳細

【条件】

- 対象者：川口市への移住検討を目的に、7日以上連続で対象宿泊施設に宿泊する18～35歳の者。
- 対象宿泊施設：川口市に登録申請を行い、認定を受けた宿泊施設。

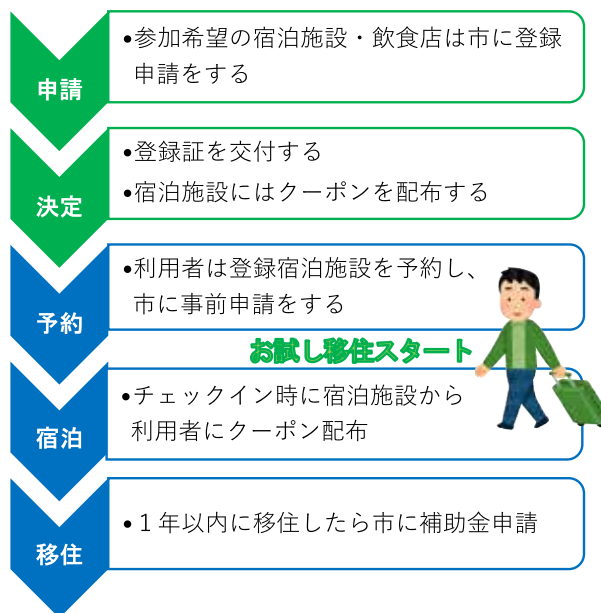
(1) 飲食店で使えるクーポン配布

- お試し移住中に登録飲食店で使えるクーポン1500円（500円×3枚）を配布する。
- 飲食店は指定の期間に市にクーポンの換金申請をする。

(2) 移住したら宿泊費補助

- 宿泊後1年以内に川口市に移住した人に宿泊費補助。
- 補助率：50%
- 上限額：1日3千円（最大7日間）＝21,000円

●手続き・利用の流れ



4. コスト

項目	R4	R5	R6	R7	R8
宿泊者	200人	-	600人	600人	600人
移住者	50人	50人	150人	300人	300人
費用	185万	105万	505万	920万	920万

5. リスク

- 協力宿泊施設・飲食店が少ない可能性がある。
⇒商工会議所等に協力を仰ぎ、宿泊施設・飲食店に制度の周知を図る。
- 補助金条件が移住なので利用者が少ない可能性がある。
⇒試験運用の期間を設けることにより、ニーズの把握をして本格運用に向けて施策内容の見直し・充実を図る。

6. スケジュール

R3.10	ホテル・飲食店募集	試験運用
R3.12	ホテル・飲食店決定	
R4.1	P R 開始	
R4.4～R5.3	運用（1年間）	
R5.4	本格運用について検討	本格運用
R5.10	ホテル・飲食店募集	
R5.11	P R 開始	
R6.4～	運用開始	

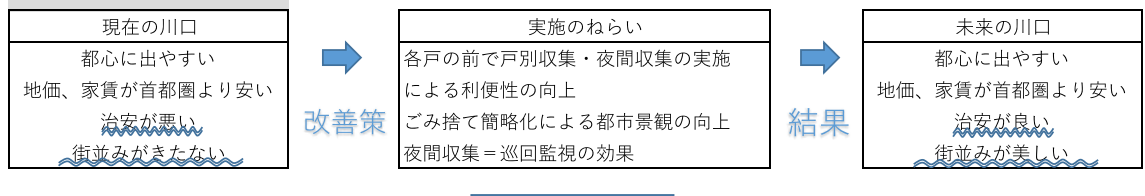


グッドモーニング クリーン・シティ

～「川口、ごみ出し夜だってよ!!」～

6班 小俣 宮本
川井 田川
岩田

1. 実施のねらい



2. 新旧比較

現状	収集場所	未来
路上集積所	← 戸建て →	戸別収集
20世帯に1箇所	← 24時間 →	各戸の前に置く
朝8:30まで	← 日没～24:00まで →	日没～24:00まで
日中	← 夜間 →	夜間
朝8:30以降	← 24:00～明け方まで →	24:00～明け方まで

3. 実施事項&PR

「川口市が住みたいまちと思える秘策」～朝〇、におい〇、ごみ〇の社会を目指して～

- ・収集車両を現在よりも増加させ、迅速な戸別収集を実現させる
- ・収集場所の差をなくし、どの世代にも優しいごみ出しを提供する（現在：再生利用対象物→50世帯、廃棄物→20世帯に1箇所）
- ・夜間収集を行うことで、昼間の都市景観が良くなり、明るいイメージアップにつながる
- ・夜間収集により、人通りが少ない時間を減少させ、犯罪防止につながる
- ・YouTube配信、SR・JR等の車内広告、定住促進サイト「1110city.com」等に掲載し、市外に「クリーン川口」をアピールする

4. コスト&効果

～～コスト～～

	R6年度	R7年度	R8年度
費用	4.5億	6.6億	15.8億

- ・収集車両購入費（10台分）
- ・軽トラック購入費（5台分）
- ・広告宣伝費
- ・運搬業務委託料

～～効果～～

- ・都市景観の向上
- ・夜間収集による昼間の交通渋滞緩和
- ・巡回監視による防犯・防災効果の向上
- ・責任の明白化による不適正排出防止

5. リスク

想定されるリスク	対策
深夜の騒音問題	集音マイクの導入
分別意識の低下	警告シールを貼り、収集せず
戸別収集による負担増	コロナ離職者・生保受給者の積極的雇用
狭い道路での大型車両利用不可	軽トラック等を利用

6. スケジュール

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
規則等改定					
市民への周知					
戸塚・青木地区試験運用開始					
安行・横曽根地区試験運用開始					
全市運用開始					
市外への広報活動					

Lock in kawaguchi Project ～市民が安心して暮らせる街へ～

7班 岩田 渡邊 伊藤 財部 細田

1.本件実施のねらい

市内の犯罪件数1位は例年自転車盗難となっている。
自転車は幅広い世代が利用しているため盗難防止に向けた取組みは市民と行政が協働で行うことが可能であり、川口市をアピールするチャンスでもある。
このような取組みを行うことで犯罪発生件数を減らすとともに市外へ積極的にPRすることで川口市に対する良いイメージの醸成をねらいとする。

2.実施事項と詳細内容

(1) 条例改正

- ・施錠は「努力義務」→「義務」へ
- ・放置禁止区域を「指定区域」→「駐輪場以外の市内全域」へ

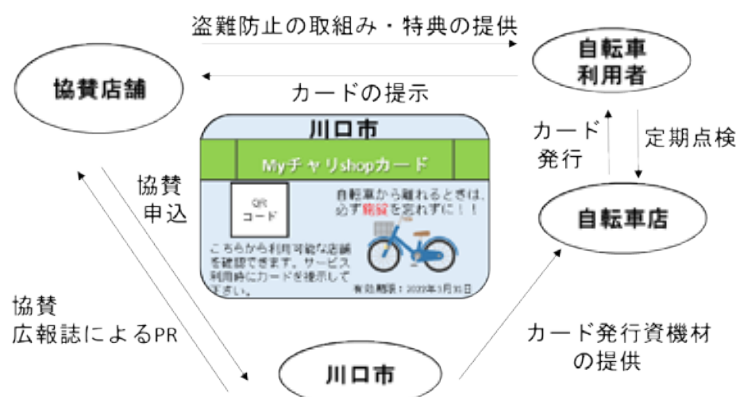
(2) 市民の意識改善のための取組み

①Myチャリlock

自転車の強制施錠イベント 未施錠の自転車は「自転車見守り隊」が強制施錠

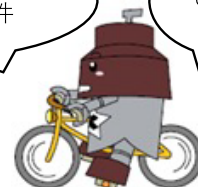
②Myチャリshop

Myチャリshopカードを協賛店で提示すると特典を受けられる仕組み



例年犯罪件数最多
令和2年1149件

盗難車の
6割が
無施錠



3.コスト・予算（費用対効果）

単位：万円

	2022	2023	2024	2025	2026	計
効果※1	0	0	0	1200	2400	3600
費用※2	302	361	249	249	249	1410
利益	-302	-361	-249	951	2151	2190

※1 転入者の地方税

※2 人件費、SR動画広告費 など

4.実施に伴うリスク

リスク	対策
・イベント時の人材確保	・職員2名 民間雇用3名
・イベント時のトラブル	・警察に協力体制を依頼
・職員負担の増加	・他部署より人員応援
・協賛店が集まりにくい	・広報川口、商工会議所を通じた募集

5.スケジュール

	2021.9	2022.4	2022.9	2023.4
条例改正	素案作成・修正・条例案確定・議会承認・周知			条例施行
Myチャリshop		協賛店募集	事業開始	
Myチャリlock				イベント開始

子どもが安全に暮らせる街はみんなの住みたい街 －「かわぐち子ども見守りマップ」の作成－

【8班】

田嶋 佑太 小野里 優希 岩城 稜磨 櫻井 利紗

1 本件実施のねらい

- (1) 住環境における安全の優先順位は高い
- (2) マップ作成により、危険箇所を迅速に可視化
- (3) 市民の意見を効率的に集約

⇒子どもの安全を守り、誰もが住みたい街へ

2 実施要項

- ▶小学生の保護者やスクールガード・リーダーによる投稿から市内の危険箇所を表示した「かわぐち子ども見守りマップ」を作成・公開
- ▶投稿された危険箇所に注意喚起を促す路面標示シート等を設置

※「スクールガード・リーダー」とは・・・
学校内外での子どもたちの安全のため、各拠点校を中心に指導巡回等を行う地域学校指導安全員

3 詳細内容

- ▶イメージ図
保護者



※投稿フォームのイメージ



- ・ 位置情報
地図から選択可
- ・ 危険の内容
ex) 道幅が狭い
交通量が多い
- ・ 交通手段
ex) 徒歩
自転車

4 コスト・予算（費用対効果）

▶コスト

（単位：万円）

	初年度	2年度	3年度	計
費用	166	132	132	430

※危機管理課で導入されている「川口市災害情報システム (K-dis)」と同様のシステムを導入する場合

▶効果

- マップを電子化することで、
- (1) 迅速に危険箇所を反映
- (2) 子どもが関わる事故件数の減少

⇒子どもの安全を確保して住みたい街へ

5 実施に伴うリスク

リスク	対策
誤った情報が投稿される	投稿権限を保護者とスクールガード・リーダーのみに限定
卒業した生徒の保護者も投稿権限が残る	年度ごとにパスワードを変更して在学中生徒の保護者のみに限定

6 スケジュール

R3年度	システム導入に係る情報収集 業者・関係課との調整
R4年7月	システム開発業者決定 システム開発、関係課との調整
R4年10月	試験運用開始 ・スクールガード・リーダーにID通知 ・危険箇所の投稿をテスト
R5年2月	実運用開始 ・小学校から学区ごとに保護者にID通知 ・マップをHP上に公開 市内外へのPR活動開始